

平成28年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	鹿島市町立明倫小学校		
2 所在地	鹿島市大字納富分甲 59 番地		
3 校長名	中村 和彦		
4 学級数 児童生徒数	14学級 432人	5 実施学年 児童生徒数	5年 83人

6 取組のねらい

ユニバーサルデザインについて知り、誰もが安心して暮らせる社会に向けての意識づくりに取り組むことで、違いを認め合うことや、相手を思いやる気持ちを育てる。

7 取組の実際

(1) UDについて知る

① オリエンテーション

町の中や家の中での様々な場面を思い起こし、様々な人にとって、使いやすいところや、使いにくいところを考えさせ、みんなで使うものはみんなが使いやすいものがあることを確認した。こういう考え方をUDということを知らせた。

② UD出前講座

県のほうから来ていただき、UDについての佐賀県での取り組みや、実際に使われているUDデザインの商品を実際に触って体験させていただいた。

《児童の感想》

- ・障害を持った方やけがをした人が使いやすいものがたくさんあってよく発明したなと思いました。
- ・今後の社会がもっとやさしくなってくると不自由な方も暮らしやすくなると思います。



(2) 車いす・高齢者体験

自分たちが、いろいろな人の立場になってみることで、不自由さを感じ、相手の立場に立って考えることができるようにする。今回は鹿島市役所福祉課の方に来ていただき、高齢者の方についての話や実地体験を行った。

- 老眼等体験コーナー
- 体の老化体験コーナー
- 車いす体験コーナー



《児童の感想》

- 体の不自由な人が使いやすいように、階段に手すりがあることが分かりました。

(3) UD探検

学校の周りの商業施設や公共施設のUDへの取組の様子を見て回り、取組の実際について知る。また、改善点などUDの立場に立って町を見て回る。



《児童の感想》

- もしお父さんが、車いすマークのところにお車を止めたら注意したいと思います。ぼくも今から思いやりをもって生きたいと思います。

(4) 学習のまとめ

① 新聞にまとめる

グループで調べたことなどを新聞にまとめる。

② アイディア作品を考える

自分たちでこんな道具があったらいいなというものを考える。

③ 作文を書く

これまでの取組みを作文にまとめる。

(H29年度 作品コンクールに出品予定)

8 取組の成果と課題

- UDについて何も知らなかった子どもたちが学習を進めながら、改めて自分たちの身の回りのことに目を向けるよい機会となった。学校の中や地域でのUDへの取組みの考えに基づき整備されてきているものに気づくことができた。
- 佐賀県県民環境部県民協働課の出前講座や、市の体験活動の取組みを利用させていただきながら活動を進めることができた。道具を見たり、自分が体験したりする活動ができてよかった。
- 様々な方の立場に立てるように、外国の方や妊婦さんとの交流学习などもできると、さらにいろいろな角度から見る視点を持つことができたように思う。